

教科(科目)	公共	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版 『公共』				
副教材等	浜島書店『最新図説 公共』 実教出版『公共 演習ノート 新課程版』				

### 1 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</li> <li>・現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>
---

### 2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取り扱う基本的知識の確実な定着を目指す。</li> <li>・基本的な知識を基に、それらを応用・活用し、対話的な活動を多く取り入れることで、深い学びの実現を目指す。</li> </ul>
--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

### 4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実社会の諸課題について、必要な知識を習得している。</li> <li>・現実社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実社会の諸課題について問いを見だし、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会の実現を視野に、それぞれが選択した現実社会の諸課題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から、それぞれが選択した現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>
評価方法	以上の観点をふまえ、 ①定期テストの分析 ②ワークシートや準拠ノートの内容の確認 などから、総合的に評価する。	以上の観点をふまえ、 ①定期テストの分析（史料読解、論述問題） ②ワークシートや準拠ノートの内容の確認 ③授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 などから、総合的に評価する。	以上の観点をふまえ ①授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ②ワークシートや準拠ノートの内容の確認 ③振り返りシートの記述の分析 などから、総合的に評価する。

## 5 学習活動

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価 方法
4月	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	5	教科書 図説 演出ノート	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。	a b c	小テスト
5月	第2章 人間としてよく 生きる	5		・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。		授業への 取り組み
5月	第3章 他者とともに生 きる	4		・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解させる。		討議
6月	第4章 民主社会の倫理	4		・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。		課題の 提出
	第5章 民主国家におけ る基本原理	5		・民主政治の誕生と発展について理解する。		定期 考査
7月	第2部 よりよ い社会の形成に 参加する私たち 1 現代の民主 政治と日本国憲 法	8		・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。 ・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにするとともに、我が国の防衛に関する基本的な事柄にも触れながら、変化する国際情勢の中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについて理解させる。		
9月	第1章 日本国憲法の基 本的性格					
	第2章 日本の政治機構 と政治参加	6		・司法参加などに関わる現実社会の課題を基に、憲法の下、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。		

10月	2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会	9	教科書 図説 演出ノート	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。	小テスト  授業への取り組み  討議  課題の提出
	第2章 日本経済の特質と国民生活	9		・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。	
11月 ・ 12月	3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題	5		・国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解させる。	
	第2章 国際経済の動向と課題		・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解させる。		
1月  2月  3月	第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	4	・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。 ・この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高める。 ・個人を起点として、自立、協働の観点から、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究する。		

## 6 課題・提出物等

必要に応じて課題プリントやノート及びレポートの提出を求める。

## 7 担当者からの一言

この教科を学ぶことにより、「学習目標」に書かれているような態度や能力を身につけてほしいと考えています。あくまでも「勉強」なので、楽しいことばかりではなく、難しいことや、大変だと感じることも多々あるとは思いますが、頑張ってください。